

第5次結城市総合計画実施計画策定及び行政評価シート

担当部署	部局名	産業経済部		
	課名	産業振興課		
	係名	観光係		
	記入者		電話(内線)	218

1. 事業の概要

(1) 事業種別 [新規又は継続]		継続		(2) 事務事業 の名称		観光物産センター運営事業				(3) 事業の 優先度		B	
(4) 総合計画での位置づけ							(6) 事業主体		市				
① 事業の区分		主要事業					(7) 予算・ 財源等 の種別		事業の性質		一般事業費(ソフト事業)		
② 施策コード		34101		(総合計画掲載ページ 96 ページ)					会計区分		一般会計		
基本目標(政策)		3		歴史と自然を育む活力あるまちづくり(産業)					財源区分		市単独		
基本施策		4		地域資源を活用してにぎわいと交流を促進する観光の振興(観光)					予算科目		款 7 項 1 目 5		
施策				地域資源を活用した観光の振興					予算書上の		市観光物産センター運営経費		
施策内容				地域資源を活用した観光の振興					事業名称		(予算書 132 ページに掲載)		
(5) 事業期間		開始		16 年 5 月から		(8) 事務分類		法定受託事務					
		終了		年 月まで (力年)		根拠法令		観光国推進基本法					

2. 事業の目的及び内容

(1) 対象 (だれに対して・何に対して行うのか)	(3) めざす姿 (意図・どのような状態になるのか)
観光者	結城市の観光情報(物産品等を含む)を提供し、観光旅行の容易化及び円滑化を図るとともに、市内の観光・物産PRを目的とする。
(2) 手段 (事業内容・どのようなことを行うのか)	(4) 事業開始のきっかけや他市の状況など (※ 1-(8)事務分類が法定受託の場合は記入の必要なし)
・観光案内業務を市観光ボランティアガイド協会に委託 (パンフレット等による観光情報の提供) ・結城市物産協会による本市物産品の展示・販売を実施	・全国各地で地域の観光資源を活かし、観光PRを実施し、地域活性化を目指している。本市においても、観光者に対する情報案内の場として設置が求められていたところである。 ・結城市民情報センターの開館(平成16年5月)に伴い、観光物産に係る情報案内スペースとして館内の一部に設置される。
(5) 事業をとりまく環境の変化(社会環境、市民ニーズ等)や市民・議会の要望、意見等とそれに対する対応	
・観光物産センターの場所がわかりづらいのと同時に、観光ボランティアが常駐していることも知られていない。その2つを明確にするための、はっきりとした案内板が必要である。	

3. 事業コスト

行政評価		実績内容の評価		検討・改善		検討・改善内容を反映		
実施計画								
● 予算内訳		実績額（千円）		当初予算額（千円）		計画額・見込額（千円）		
事業内容		26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度		
(1) 事務事業費の コスト	事業費	観光物産センター管理委託料	540	540				
		需用費(消耗品費)	38	35				
		合計	578	575				
	財源	国庫支出金 (千円)						
		県支出金 (千円)						
地方債 (千円)								
その他特定財源 (千円)								
一般財源 (千円)		578	575					
	合計 (千円)	578	575					
	補助・起債制度名							

4. 指標の検証（活動指標・成果指標）									
指標の名称				単位	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度
(1) 活動指標（実施した事業の内容）									
指標名	観光案内 （観光ボランティアガイドか1名常駐。午前・午後の半日交代制）	目標値	人		630	630	630	630	
		実績（見込）値		616					
	物産品販売金額（売上金額の20%）	目標値	千円		1,200	1,200	1,200	1,200	
		実績（見込）値		832					
(2) 成果指標（事業実施によるめざす姿の達成度）									
指標名	観光物産センター入場者数	目標値	人		15,000	15,000	15,000	15,000	
		実績（見込）値		14,248					
		達成率		95.0 %	0.0 %				
	物産品販売金額（売上金額の20%）	目標値	千円		1,200	1,200	1,200	1,200	
		実績（見込）値		832					
		達成率		69.3 %	0.0 %				
5. 事業評価									
(1) 平成26年度の行政評価結果をうけて、平成26年度に取り組んだ改革改善点があれば記載してください。 ・展示商品の充実、拡充に努めた。									
(2) 項目別評価									
評価項目・客観的評価				理由					
必要性	事業の必要性	A	必要性は高い	観光案内は必要であり、物産品のPRや販売なども効果的である					
妥当性	実施主体の妥当性	C	見直す必要がある	民間または、他団体で行うべきである					
	手段の妥当性	B	どちらとも言えない	観光物産センターのあり方を再度協議する必要がある					
効率性	コスト効率 人員効率	B	どちらとも言えない	人員は3人態勢で行うのが望ましいが、コスト効率を考えると現状が妥当である。					
公平性	受益者の偏り	C	偏りがある	限定された個人や団体等のみに便益がもたらされており、問題である					
有効性	成果の向上	B	どちらとも言えない	昨年度よりは、売り上げが増加したが、依然目標にはほど遠い。					
進捗度	事業の進捗	B	どちらとも言えない	商品1つ1つの質を高める必要がある。					
(3) 総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください。 施設の立地条件が結城駅北口という好条件にありながら、結城駅改札を出ると案内板が無いなど、場所が分かりづらく、観光者に不親切である。また、結城市民情報センターに併設されているため、月曜日が休館となっており、知らずに訪れた観光者が少なからず存在し、観光PRを実施し地域活性化を目指している本市としては改善していく必要がある。物産品の販売については、商品の拡充に努めてはいる。売れ筋商品とそうでないものを明確にし、販売する商品の質を高めていくことが、売り上げ増加に繋がると思われる。また、販売開始時間が10:30分からのため、それ以前に訪れた観光客に商品が売れない状況があり早急に									
(4) 対応策・提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか？ ・物産センターへの案内板を設置する。 ・売れ筋商品とそうではない商品を明確にする。 ・販売時間を早める。									
6. 事業の方向性判断									
評価主体		27年度以降の事業の方向性			評価理由・根拠				
(1) 記入者評価 記入者が評価を行う		統合・新事業への展開			注) 記入者は「5. 事業評価」を記載するため、この欄は未記入で結構です。				
(2) 一次評価 担当課長が評価を行う		統合・新事業への展開			駅前の物産センターは、情報センターオープン時の事情により、現在の、ボランティアガイドと物産協会が利用している。観光案内をボランティアガイド・物販を物産協会が行っている。今後は、結城ブランド品の販売・も含め物産センター利用の検討を要す。また、観光案内を行っているボランティアガイドの独立も視野に入れた検討が上記評価のとおり。				
(3) 最終評価 企画調整会議において評価を行う									